

サンダーバード、出動!

text by Shinji Ishii
文いしいしんじ

四歳から六歳までかよった「幼児生活団」の、六歳児でのクリスマスプレゼントに、ぼくはロケットのぬいぐるみをもたらった。十月ごろ子どもたちが描いた絵を、先生がひそかにそれぞれの母親に渡し、母親はそれを各家庭で夜なべして、クリスマスの集まりまでに手作りでもつてくる。親が作っていることは決して子どもたちに気づかされてはならない。

ロケットは扁平形で青く、黄色い糸で「リボフ2ごう」と刺繍が施されてある。リボフ、がなんなのか、いまとなっては思い出せないけれど、2ごうの意味はわかる。次男坊だった僕は、席とりでも背番号でも、いつも「2」を選んでいった。なにより、初めて目にした日から、サンダーバード2号に夢中だった。

初回放送は1965年から66年。0歳の僕が見覚えているわけがないから、何度も

りかえされた再放送で見ていたのだろう。お父さんのジェフ。スコット、ジョン、バージル、ゴードン、アランの「トレーシー兄弟」。リアルなメカ。息をつかせぬストーリー。大学生になって再見しても、その完成度の高さに驚くほかなかった。製作総指揮者ジェリー・アンダーソンが舞台裏を明かしたノンフィクションはむさぼるように読んだ。

幼い頃から、アメリカからやってくるアニメ番組(当時は「テレビまんが」と呼んでいた)と、まったく別物だと感じていた。叔父さんが「しんちゃん、これは、イギリスで作ってるんやで」と教えてくれて、それで作中にてくるイギリスをひとつひとつチェックしては画用紙に写すようになった。

ロンドンの町。ロールス・ロイス。紅茶。女王さま。

トレーシー兄弟の髪型や、ふだん暮らしているときの様子もイギリスっぽかった。レコードプレーヤーでロックをかけ(当時は「ジーエス」と呼んでいた)、男女向かい合っておどる。シリーズの後半でできた「シャドウズ」というバンドが、ほんとうにイギリスにいる、と知って驚いた。シャドウズの演奏自体はそんなにかっこいいと思わなかった。それよりなにより、オープニングのあの重厚なテーマソングさえあればよかった。

十代半ばになって、60年代のロンドンでなにが起きていたか、音楽、映画、小説などから、遅ればせながら知るようになった。ビートルズ、ストーンズ、ジェームズ・ボンドにツイッギー、F1、サッカークのワールドカップ、ミニスカートのサイケファッション。サンダーバードのかっこよさも、「スウインギング・ロンドン」と呼ばれる

そのムーブメントの、ひとつの現れだった、とようよう理解した。ひとつ握りの天才だけの仕事ではない。世界中を巻きこんで渦巻いた、もつともヒップな色、音、形がはいりこんでいるから、いま見直しても、サンダーバードの世界は胸ゆさぶられるほどかっこよいのだ。

その名作が、21世紀になってよみがえったことを知らないひとも多いのではないか。「サンダーバード Are Go」とタイトルを変え、実写とCGを組み合わせた30分番組が、イギリスとニュージールランドの合作で、2015年から今年まで製作された。日本でもNHKで第一シーズンが放送され、現在スーパー!ドラマTVで第二シーズンがオンエアされている(もちろん毎回録画している)。

基地からの出発シーン、メカの細部、キャラクターの性格など、オリジナルへの愛情が敬意が洋溢し、みていて感嘆する。リメイクされるなかで、五号は大幅にデザインがかわり、フッド以外にもさまざまな悪役が登場するが、「戦闘は行わない」「災害や事故の救助に徹する」「いっさいの見返りを求めず、みずからの身をなげうつ」など、

活動の基本線は一切なら変わらない。

2号とならんで、オリジナルのころから人気が高かったのが、レディ・ベネロープとパーカーが乗るピンクのロールス・ロイス「ベネロープ号」だろう(英語ではFAB1という。ちなみにFAB4と書くとはビートルズを意味する)。デザインは変わったも、優雅な今風セレブのベネロープに乗せ、走りまわる町はロンドンの市街だ。

そのロンドンが、オリジナルに比べ、全然イギリスっぽくない。他国との合作だから、というより、いまのロンドンがまさしくそんな風なのだろう。リメイク版のトレーシー兄弟の服装も、英国風というより、アディダス等、世界じゅうで人気のブラン

ドものようにみえる。グローバル化する現実の世界が、そのまま自然と反映されている。

まさしく「国際」救助隊。いまは「インターナショナル・レスキュー」。国境をこえて奮闘する国際組織、という色は、いっそう強くなったかもしれない。現在、世界規模で巻き起こっている目にもみえない災害に対し、彼らサンダーバードならどんな手をうつだろうか。インターネットの英字ニュースを散見しながら、そんなことを思った。



英国(グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)
United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

面積	積: 24万2,514km ² (日本の約65%)
人口	口: 6,561万人 (2018年、出所: 英国国勢統計局)
都	都: ロンドン 人口 890万人 (2018年、出所: 同上)
言語	語: 英語(一部地域でウェールズ語、ゲール語も併用)
宗教	教: 英国国教会



Profile
1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説『ぶらんこ乗り』『麦ふみクーツェ』『ポーの話』『みずうみ』『四とそれ以上の国』など、エッセイ『人生を救え!』(町田康共著)『熊にみえて熊じゃない』『遠い足の話』、絵本に『赤ずきん』(ほしよりこ絵)など多数。